

Cartonnage Lesson Text

Candy Pot II

ポット型カルトナージュ【組み立て・トリム編】

スカラップカットのキャンディーポット



TASSEL & CARTONNAGE

Cartonnage Lesson Text Candy Pot II

ポット型カルトナージュ【組み立て・トリム編】

はじめに

ポット型は壺や瓶のような形をした入れ物をモチーフにしたカルトナージュのスタイルです。実際に壺や瓶は、缶やビンまで入るもので、箱ではなく器になった容器を指すものといっ
てよいでしょう。

カルトナージュを深く追求していく過程では、形だけの視点
でカルトナージュを作るだけでなく、実用性や便益性（その
物使いに都合が良いこと）と合わせて考えることでカルトナ
ージュの視座を高めることが大切です。

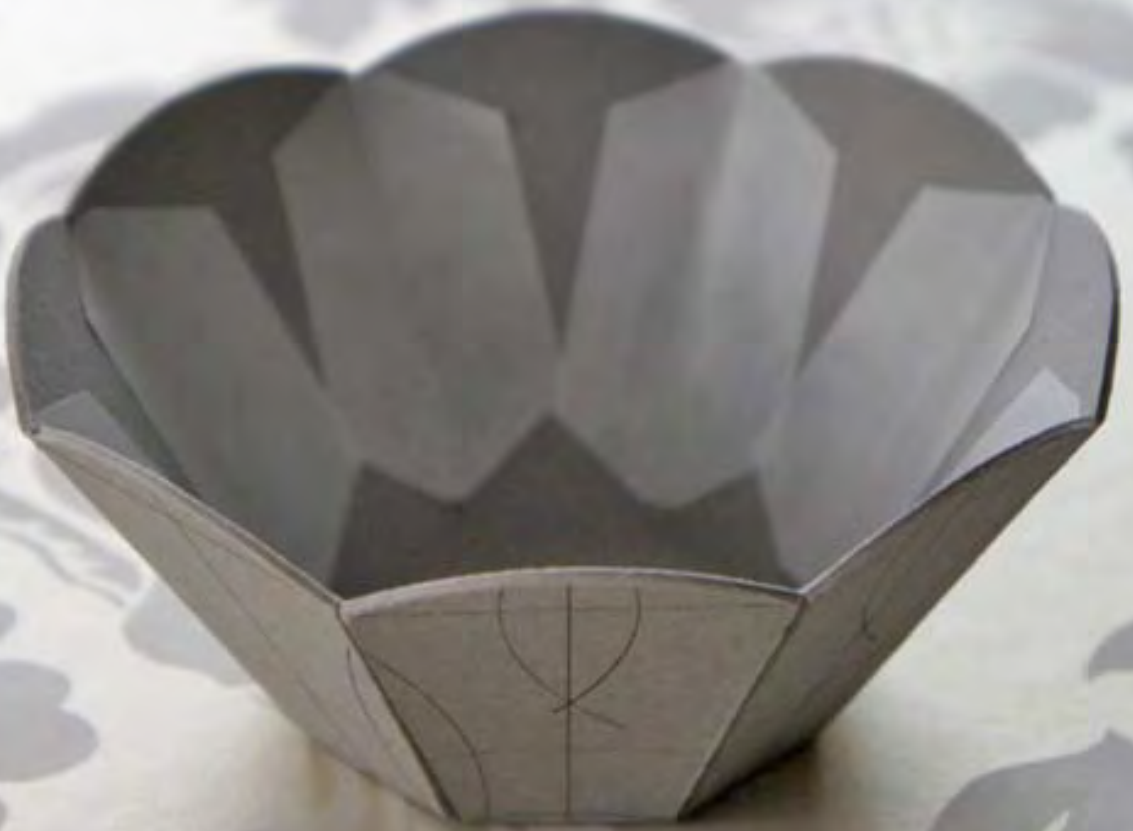
組み立て・トリム編 | Contents

【Chapter3】 Assembly～組み立て

キャンディ・ポットの器を組み立てるための準備をして、折りの手法を用いた
組み立ての特徴を理解して、トリムのためのファンデーションまでを行います。

【Chapter4】 Trim～トリム

組み立てた器皿の外装トリムから内装までを仕立てて完成させます。次にリッ
ドの紙取りを行い、ノブに巻き玉を作ってリッドを完成させます。



Assembly

Chapter 3

組み立て

STEP 1

組み立ての準備 Foundation

キャンディ・ポットの器を組み立てるための準備をしましょう。

準備作業の進め方

カルトンに紙取りした器の展開図や部品をそれぞれカッターで切り取っておきます。器のアーチの部分は、コンパスカッターを用いてもよいですし、わりとゆるやかなカーブなので、フリーハンドで丁寧にカットすることもできるでしょう。また、カルトンを組み立てる前には、カッターによるバリがカルトンのエッジにできていますので、サンドペーパーできれいに磨いておくと接合がとても美しくなります。

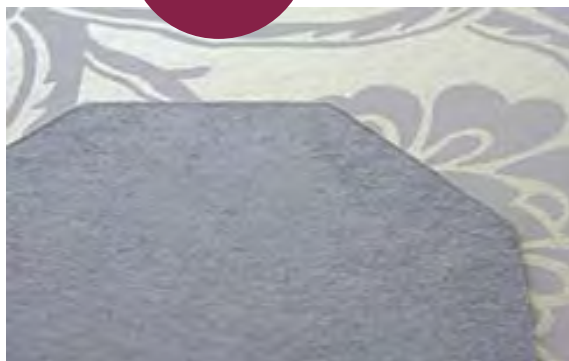
キャンディ・ポットの器は、折りによって組み立てます。折りによって起こされたカルトンの接合は、接着剤と水貼りテープで行います。

- 【準備するもの】
- ・ カッター（小型）
 - ・ カッティングマット
 - ・ 金尺（カッター用）
 - ・ コンパスカッター（サークルカッター）
 - ・ 水貼りテープ／白／ 38mm 幅
 - ・ クラフトボンド

カルトンの研磨

サンドペーパー
の番手は？

240 番



全てのカルトンは、カット後にサンドペーパーをかけましょう。左写真は、カット直後の蓋のカルトンの切り口です。カルトンの表面をカッターで引くことによって、カルトンの繊維が浮き立ってしまうのです。このエッジを研磨して取ることによって、後のカルトンの接合がしやすくなり美しく組み立てられます。

水貼りテープのカット



カルトナージュの補完材料である水貼りテープは、カルトンどうしを接合するための補強になります。この水貼りテープは、二つ折りにして小口を内に向かって 45°くらいの角度でカットします。写真では、糊面を外側にして二つに折り、4枚重ねてハサミでカットしています。

STEP 2

器の組み立て Pot Assembly

キャンディ・ポットの器を組み立てましょう。

器の組み立て方

器の組み立ては、折りを用いているので面で組み立てるよりも早く正確に組み立てられます。ただし、折りはハーフカットの手法を用いて均一に折り目を入れる事が大切です。

折り起こした後は、カルトンの小口に接着剤を差して、器の内側からのみ水貼りテープで補強します。外側の補強はくるみとの関係で、後から全面を補強する方法を用います。



器の組み立て見本

1



ハーフカットする

カルトンの底になる八角形の製図にそってカッターで均一にハーフカットします。ハーフカットは、1mm 台紙の半分にあたる 0.5mm 分をカットして、残した半分の厚みを山折します。

2



山折して折り目を正確につける

ハーフカットが均一に行えたならば直角に折曲げることができます。少し折りグセを裏から押さえつけるように曲げ、曲がり方にムラがあれば再びカッターを少し入れて均一に慣らしましょう。

3



小口に接着剤を塗布する

カルトンのエッジ部分を接合するための細い部分ですが、小口の内側角に接着剤を塗布します。この作業では、直接に極細ノズルのクラフトボンドを用いると作業がしやすくなります。

4



側面どうしを接合する

一枚ごとに側面を接着剤で接合していきます。また、面どうしを接合するたびに裏から水貼りテープを貼っていきましょう。ボンドを少し乾かして接着するとよくひっつきます。

5



水貼りテープを8枚用意する

内側の水貼りテープは、糊面を外にして折ることがポイントです。また、水貼りテープの長さは、側面小口の寸法を参照してカットして下さい。

6



接合は必ず裏から貼る

カルトンを接合する度に裏から水貼りテープで補強します。水貼りテープの位置は、器の上小口（アーチの繫目）にピッタリと合わせて貼ることで、底より開口部が開かないように注意します。

7



最後の1面を接着する

最後の一面だけは、カルトンの両小口に接着剤を塗布して起こし接合します。接合後は、水貼りテープで補強すれば器の組み立ては完成します。外側面への水貼りテープは次の章で行います。

8



器の基本構造が完成

アーチの連なりはスムーズですか？また、カルトンどうしに隙間はありませんか、外側のカルトンの小口は滑らかで磨き残しはありませんか。これらが仕上げの注意点です。

Candy Pot

9

器の外側面を水貼りテープで化粧する

器の外側面は、水貼りテープを用いて、化粧を兼ねて全面を補強します。その場合には、あらかじめトリム用に作ったテンプレートを型紙にして、外側面を全て覆うよう水貼りテープをカットして用います。

10

**外装用の型紙を用意する**

外装用と内装用に作った型紙のうち、外装用の型紙をテンプレートに用いて、水貼りテープを切り取っていきます。

11

**型紙と水貼りテープを合わせる**

外装用の型紙の幅は、38mm ですから、ちょうど水貼りテープ 38mm の幅とピッタリ合うはずです。水貼りテープを縦にして、型紙の上のアーチと下の直線をカットし左右は必ず残しておきます。

12

**巻き代を残すこと**

外装用に貼る水貼りテープは、外装側面を全体に覆って下打ちすることと、側面小口への巻き代をもった形になります。この種類のものを4枚カットしておきます。

13

**巻き代で小口を覆う**

外装側面は合計で8面ありますが、奇数ごとに1面づつとばして貼っていきます。水貼りテープのアーチをきれいに合わせて、左右は、カルトンの継ぎ目を覆うように貼りましょう。

14



外装側面の形に切り取る

奇数とばしに貼ったテープとは別に、今度は偶数面に用いる水貼りテープの形状を作ります。この水貼りテープは、型紙と同じ形に切り抜いたものを4枚用います。

15



外装面にぴったり貼る

偶数面は、奇数面からの巻き代がでていますので、更に巻きしろを作ると奇数面に巻き代の凹凸が現れてしまいます。したがって、偶数面は側面の形に合わせて切り取ったものを貼ります。

16



外装側面を全て貼る

偶数面を貼り外装側面の下打ち化粧と補強が完了します。カルトンの繋目も滑らかで、表面もできるだけフラットな化粧になり、尚かつ補強もかねた水貼りテープの使い方になっています。

17



底は水貼りテープを貼らない

最後に、残された底には水貼りテープを貼りません。くるみの段階で外装部品の底板を別途貼るために、化粧や補強を重複させないためです。これでキャンディ・ポットの器が完成しました。

Candy Pot





Trim

Chapter 4

トリム

STEP
1ポットの外装
Pot exterior trim

ポットの外装を仕立てましょう。

外装作業の進め方

組み立てた器の外装方法によってトリムが全く異なってきます。一つ目は、底から起こして側面を繋いでいくトリム方法です。二つ目は、側面と底を別個にくるむトリム方法です。このポットは、二つ目の、側面を一体でくるんでしまい、別個に化粧した底をアSEMBルする方法をとります。側面を、ぐるっと一周させて一カ所に重ね代をとることで、側面の繋目を少なくしています。底は、強度補強のために化粧した底板を最後に接着して完成です。注意する点は、器の側面が傾斜することで、トリムパターンが扇状になるため、マルチアングルなクロスのパターンを装飾クロスに用いることです。



トリム・テンプレート

外装トリムのために作ったテンプレートでクロスをトリムします。型紙には、予め巻き代と折り代が加わった大きさになっています。扇状になるためにクロスパターンに注意しましょう。扇の中央のスペースには、底板用のトリムを生地取りすることのできる所以で利用することを忘れないように。

クロスアイロンがけ



キャンディ・ポットで用いる綿ロームは、薄くシワがよりやすいために、必ずアイロンがけをします。その場合には、糊つけしておくと生地に張りがでてトリムがしやすくなります。また、糊つけは接着剤の目止めにも役立っています。

1



外装クロスをトリムする

テンプレートを上から重ねて、カッターで切り取ります。切り取ったクロスは、上辺のアーチのくびれと下辺の直線が、巻き位置の目安になります。

2



巻き位置を確かめる

重ね代を出して、上辺のアーチのくびれと下辺の直線を目安に、上下に巻き代をとって、巻き位置を必ず確かめましょう。次に最初の面と重ね代を接着するため、必ず2枚目の側面を手で固定します。

3



巻き位置を固定する

巻き位置の確認ができたなら持ち手で、二枚目の面を固定し、最初に接着する面と重ね代の位置を決めます。

4



最初の面をはがす

持ち手はそのまま、クロスをはがし、カルトンの側面に接着剤を塗ります。特に、接合部分の角は少し次の面にかかる程度まで塗っておくほうが、塗り残しがなくてすみます。

5



重ね代と一枚目の側面を貼る

最初の面と重ね代が接着できたら、次の面へと接着を進めていきます。必ず、一枚ごとに、巻いて最後が歪まないよう確認しながら進めていきます。その場合には生地を引っ張らないでください。

6



二枚目からは、持ち手をかえる

二枚目からの接着は、器の持ち手を変えて、生地をはがした状態で、一面ずつ巻いてたたんでいく感じで接着していきます。

7



最後の側面を貼る

最後の一面まで進んだら、クロスの端に折り返し幅を作ります。

8



折り返し代に筋付けする

折り返し代は、クロスの巻き終わりをきれいに合わせて、生地のはつれを防ぐためのものです。小口にそって折り位置を確かめて軽く筋を付けておきます。

9



小口に合わせてアタリをとる

折り位置と折り返し幅に間違いがないかどうか、一度カルトンの小口にそって合わせてみてください。真直ぐ折り返しができていれば強く折り筋をつけましょう。

10



折り返し代を接着する

クロスを一旦寝かせて、二つ折りした折り返し代を開いて接着剤で貼り合わせましょう。

11

**折り返し代を側面に貼り合わせる**

貼り合わせた折り返し代が真直ぐであることを確認してください。

12

**最後の側面を貼り合わせる**

最後の側面に接着剤をつけ、折り返し代にも少量の接着剤をつけて、生地どうしを貼り合わせましょう。

13

**ヘラでクロススの折り浮きをなめす**

貼り合わせた折り代の部分を、ヘラで平らに仕上げておきます。ここが甘いと、凹凸が目立ち剥がれてきてしまう部分になってしまいます。

14

**底の二重代をカットする**

底の折り返し代と、最初の巻き代が二重になっているところですから、下になる、最初の巻き代をカットしておきます。

15

**底への巻き代を歯車形にカットする**

底には、後に底板を化粧するため、できるだけフラットが良いです。巻き代を歯車にカットすることで、巻き代が重ならず済みます。また、折り曲げる部分を3mm残してカットしましょう。

16

**底への巻き代を接着する**

歯車にカットした巻き代を一枚ずつ底へ折って貼っていきます。折り小口の糊付けはしっかりつけましょう。角浮きの原因にもなるからです。

17

**底の巻き代を全て貼る**

底への巻き代を全て貼ったら完了です。

18

**アーチ部分への巻き貼り**

次に、アーチになった部分への巻き貼りは、下みごろから進めます。アーチになった巻き代のカットは、五等分するとよいでしょう。必ずアーチの左右から中心に向かって貼っていきます。

19

**アーチの繋目が開かないように**

アーチの巻き貼りは、中央を最後にすることで、生地のリヤ具合を真ん中で吸収し、上から被せて見えなくしてくれます。アーチのくびれは、3mm の余分がカバーして見えなくなります。

20

**最後の巻き代を薄くきれいに繋ぐ**

最後の巻き代は、二重になるためにできるだけ薄くきれいに繋いで仕上げておきましょう。これで外装側面のトリムが完了です。



21

**底板を水貼りテープで化粧する**

底板パーツにも、水貼りテープで全面に化粧して下打ちしておきます。水貼りテープの繋目は重ねずに、ピッタリ隙間なく突き合わせて貼ります。貼り終われば八辺をカットして下打ちを完了します。

22

**底板をトリムする**

器の外装にトリムした残りのクロスから、底板用のトリムを作ります。トリムは各辺ごとに歯車のカットをして、巻き代が重ならないように、対角に配慮して貼り進めましょう。

23

**底板をくるむ**

底板をくるんでしまえば、表面からクロスにヘラ掛けして定着させましょう。八辺のへりが立っているようなら、スプーンタイプのスパチュラでつぶしておくとしずくが柔らかく仕上がります。

24

**底板を器の底に接着する**

器の底部に化粧した底板を貼り合わせて、器の外観は完了します。

25

接着固定の方法

底板の接着固定は、端材のカルトン2枚を使って、上下から輪ゴムで固定しておくといいでしょう。

STEP
2ポットの内装
Pot interior Trim

ポットの内装を仕立てましょう。

内装作業の進め方

器の内装は、外装と比べてパーツが多い分、細かな配慮が求められます。内装八面は、一面ごとに貼り合わせていきますが、一面とばしに対角に貼っていくのがポイントです。そのために、先に貼るパーツは、半分くるんだ状態で内装に固定して、後から全てくるんだパーツをはめ込んでいくことで、内装側面のパーツとパーツの隙間が生じても見えないようになります。内装は、外装よりも少し浅い仕上げになっているために、外装からの巻き代が内装に3mm程「ちり」として現れてくる設計になっています。



先に貼る内装パーツ

ココが
ポイント！



後からはめ込む内装パーツ

1



内底の芯材をカット

0.5mm のカードボードを芯材にした内底をカットして用意しましょう。

2



内側面のテンプレートで複製

内側面は、テンプレートを使って 0.5mm のカードボードに 8 枚複製して切り取っておきます。



3

**内底板を型紙にしてキルト芯をトリム**

内底板と同じ大きさのキルト芯をトリムします。写真とは違い、内底板の表面に接着剤をつけて、キルト芯に貼ってから、回りをカッターで切り取りましょう。

4

**内底板の膨らんだ芯材**

キルト芯がのった底板。

5

**内底板をくるむ**

内底板を、クロスの上に置いて上から押さえつけて巻き貼りしていきます。

6

**内底の膨らみとくるみ**

キルトの反発で、表面に張りがでてきます。クロスのよれや偏りがいないかチェックしておくことを忘れないように。

7



内装底板を器の内底の中央に貼る

内底板は、器の内底よりも一回り小さい寸法です。八方の隙間を均一にとって中央に貼りましょう。回りの隙間には、内側面が突き合わさるために空いています。

8



内側面にキルト芯をトリム

8枚の内側面にも、内底と同様にキルト芯を全て貼ります。

9



内側面のトリム

内側面を裏返して、クロスをトリムします。次のページには、トリムの設計図を付録していますので参考にしてみてください。

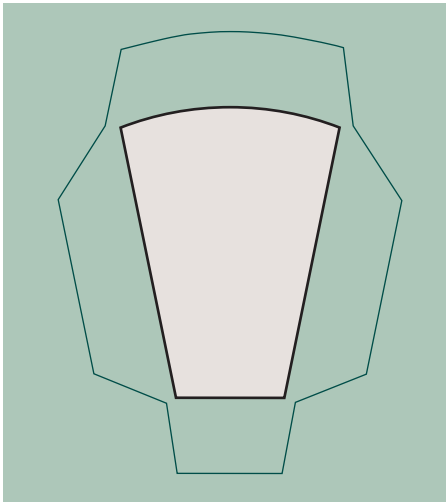
10



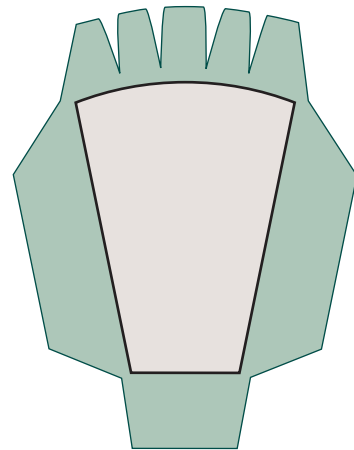
内側面のくるみ

上辺のアーチと下辺の直線のみクロスを巻いて貼り、左右のクロスはそのまま開いた状態にしておきます。

内側面のトリム

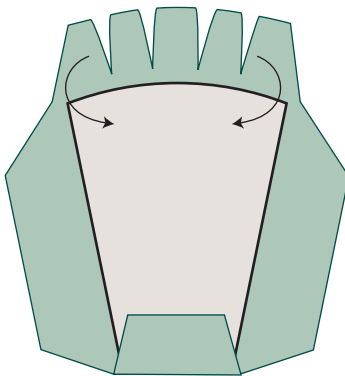


①クロスに 1cm の巻き代を加えてトリム

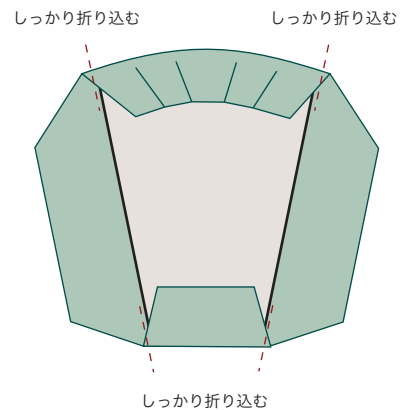


②クロスの上辺アーチを五等分する

※上辺の幅が短い場合には
4等分でも大丈夫です。



③下辺を折り込み、
上辺は左右から内に向けて巻く



④四隅をしっかり折りたたむ

※折りたたんで左右に広がれば
再びカットすること。

11

**内装を貼る**

内装側面の袖が伸びた状態で、器の内側に貼っていきます。袖は器に接着する時に、内装カルトンの小口にしっかり筋付けをして、クロスのとるみがでないよう伸ばして張りましょう。内装パーツは一回り小さいサイズですから、底板のへりの隙間に押し込むように固定し、器の側面の中央に真直ぐ固定させます。内装パーツと器の側面とは、約 3mm のちりができるよう設計してあります。

12

**対面で一面とばして貼っていく**

内装パーツは、並べて貼っていくのではなく、必ず対角に、貼って一面空けて接着して下さい。各面のバランスをとるために、空いた隙間に完全にくるんだ内装パーツをはめ込んでいくためです。この間隔が片寄ると最後の内装パーツが入らなくなってきますので注意しましょう。

13

**内装の隙間に残りのパーツをはめてみる**

内装の空いた部分に残りのパーツをはめ込んで、大きさの確認をしておきます。ピッタリ入る程度でちょうどよくなるはずです。また、アーチの繋ぎ位置も合っているか重要です。

14

**内底材を完全にくるむ**

先に貼った内装パーツとは違い、内装芯材をクロスで完全にくるみましょ。くるみ方は同じ方法で最後までくるみます。特に、四隅の角をしっかりと折り込んでおきましょう。

15

**クリップで圧着固定**

全て貼り込んでしまえば器の完成になります。底と内装側面が突き合っているかどうかを確認します。また、アーチ部分の接着が浮きやすいので、あて布を必ず使ってクリップで固定しましょう。

16

**キャンディ・ポット(器)の完成**

STEP
3ポット・リッドのノブ
Knob

ポット・リッドのノブ（蓋のつまみ）を珠飾りで設えましょう。

珠飾りの方法



ポット・リッドのノブとは、器に落とす蓋のつまみのことです。ポット・タイプは、蓋の利便性を考えなくてはなりませんから、どのような取り扱いをするか考えてノブの形状を決定します。この

キャンディ・ポットのノブは、一般に販売される木工装飾用の木玉を使って紐装飾による化粧とアセンブルをしていることが特徴です。この章で用意するものは、木玉1個とスレッド（刺繍糸を撚り合わせて1mmの太さにした2ストランド）を用います。参考例では、2色を撚り合わせていますが、お好みで配色するか、単色でもよいでしょう。また、スレッドは刺繍糸の撚り合わせか、始めから撚りのかかったレース糸を用いることもよいでしょう。その場合、甘撚りや柔らかい糸よりも固くしっかり撚り合わせた太い糸のほうが巻きやすいです。

※参考材料 直径10mmの球型の木玉、刺繍糸DMC25番

1



長さ 40cm のスレッドを 2 本用意する

80cm の長さに撚り直したスレッドを二等分したのですが、予め撚ってある糸なら、各 40cm の長さを 2 本用意しておきます。

2



木玉に二本のスレッドを 10cm 通す

木玉に通してある穴から、二本のスレッドを糸貫して 10cm 程度揃えて出しておきます。この出した糸は、蓋の裏天井にアSEMBルするために利用します。

3



木玉の先端を二つに割る

10cm 出した糸を手で固定して、木玉の先端から出た残りの二本の糸を指で二つに割って引っ張ります。

4



ホットメルトで接着固定する

二つに割った糸の隙間に、ホットメルト（接着剤）を差し込んで木玉の穴の中で二本の糸を接着固定します。

★作業の前に
準備しておきましょう。

ホットメルトは、電熱式の熱反応型接着剤として手芸用品でよく使われるものです。
ホットガンに丸棒状の固形接着剤を挿入して電熱で溶解してガンの先から塗布するものです。

5

**ツイン・スネイリング**

二本のスレッドを貝殻のように巻いていく手法です。最初の先端を小さく巻いて穴を塞ぎます。巻き方は、半周ずつ交互に巻くのがポイントです。決して偏って巻いて同じ位置にこないように。

6

**巻き位置を球形と平行に**

巻いていくと同時にボンドで固定させていきます。木玉にボンドを塗布した後に巻いて固定させます。ある程度巻き締めて下さい。球形と平行に最後まで二本が交互に巻かれることが重要です。

7

**下部の隙間に端糸を差し込む**

端糸の処理は、最後まで巻いたら根元の隙間にそれぞれ端糸を 3mm 残してカットして端糸を差し込みます。その際にボンドを差し込んでおくとよいでしょう。

8

**珠飾りのノブの完成**

アSEMBル状態になったポット・リッドのノブの完成です。次は、蓋にこのノブをアSEMBルしていきます。

STEP
4ポットへの落とし蓋
Pot Lid

ポット・リッドヘノブをアSEMBルして仕立てましょう。

作業の進め方

キャンディ・ポットの最後の仕上げは、落とし蓋の仕立てです。前章で作ったノブを蓋にアSEMBルするとともに、蓋の外装をトリムして仕立てていきます。この章のポイントは、ノブのアSEMBルの方法と手順を理解し、外装のくるみ方との関係をしっかり体得することです。それぞれのパーツがうまく連携し合ってバランスをとった作り方をしていることが特徴です。

さあ、最後の仕立てです。この章を無事に作り終えればキャンディ・ポットの完成です。素敵なカルトナーージュの誕生と出会いがありますように。

Tassel N



1



蓋のパーツを準備

蓋のカルトン芯材と直径 3cm のクロス片、ノブを用意します。クロス片は、ノブの下敷きにするもので、後の外装の下地がノブの下から見えないように敷いておくためのものです。

2



中央の穴の上からクロス片を貼る

パーツを敷き詰めていく外装装飾をするためには、万一下地のカルトンが見えないように配慮するためです。カルトンの中央にクロス片を貼って、クロスにも穴を上から空けておきましょう。

3



カルトンの裏に糸溝をほる

ノブをアSEMBルする糸をカルトンの裏で固定するために、1mm のカルトンの半分程度をカッターを使って溝を切ってピンセット等で剥がします。積層紙なので、数枚ずつ剥がしていきましょう。

4



ノブのアSEMBル用スレッドを通す

糸は1本ずつ通したほうが作業がしやすくなります。できるだけ小さい穴のほうが、ノブの固定がしっかりします。万一通らない場合は、目抜きで穴を広げてください。

5

**スレッドを裏から引っ張っておく**

通した二本のスレッドを裏から引っ張って、溝の長さにスレッドをカットします。

6

**溝にスレッドを接着して埋め込む**

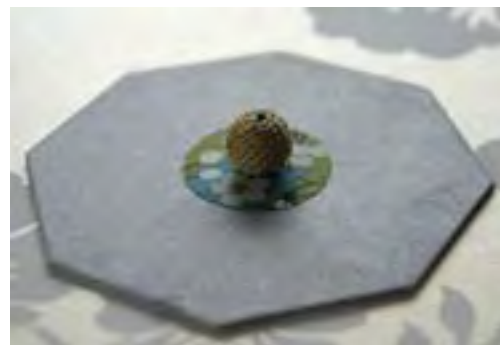
通したスレッドは、溝に接着剤を差しておいて埋め込むように接着固定します。このことで、カルトンの裏面がフラットで美しく仕上がります。また、触った感ができぼこしないというのも良しです。

7

**カルトンの裏を全面に化粧する**

水貼りテープを使って、カルトンの裏を全面に化粧しておきます。これでスレッドのシルエットが多少ですが隠すことができます。また、接着補強にもなっています。

8

**蓋とノブのアセンブリーの完了**

アセンブリーパーツを使う場合には、アSEMBルポイントをどこで隠すかが重要です。その多くは、くるみの前段階か、くるみの途中段階でアSEMBルしなければならなくなるものです。

9

**裏蓋にキルト芯を入れる**

蓋の裏にもキルト芯を入れて膨らませる設計になっています。

10

**蓋の底からくるむ**

蓋のくるみ方も八角形のくるみと同じですが、キルトを入れているので、上から押さえて、対角に巻き代を接着していくことが大切です。このような手順は、角にシワをつくらないための処方箋です。

11

**裏蓋の完成**

キルトを入れた分ふっくら優しい蓋になりました。器の途中に蓋が位置するために、絞まりが甘くなる設計ですが、クッションを互いに入れることで閉まりの悪い違和感をなくしています。

12

**蓋を落としてみる**

一度、落とし蓋をして取り扱いの感じを試してみましょう。

13

蓋上面のトリム

カードボードを芯材にした蓋上面のトリムは、八角形を八等分した三角形のパーツをパネルのように貼り詰める意匠設計になっています。あらかじめカルトンに製図した八角形には、生地幅を考慮した一回り小さな八角形から、さらに生地の巻き代を引いて八等分にしています。各パーツを切り出していきましょう。



14

**三角形の上面にキルトを全て貼る**

切り出した三角形の上面には全てキルト芯を貼っておきます。キルトの貼り方は、内装側面と同様に作業しましょう。

15

**蓋の上面に並べてみる**

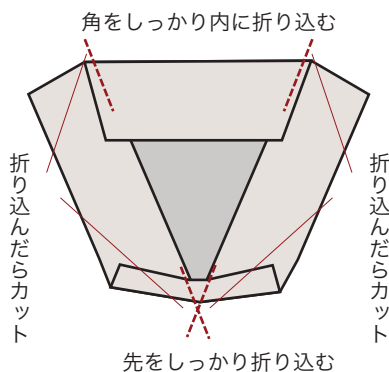
全てのパーツを蓋の上面に並べてみましょう。三角形の先は、ノブの球状の下に差し込むようにして蓋の外周を揃えて配置させましょう。

16



両袖の開いたパーツ

蓋上面のトリムも器の内装トリムと同じ手法です。最初に接合するパーツは、両袖の開いた状態（半くるみ）のパーツを対角に、一つ飛ばして貼っていきます。



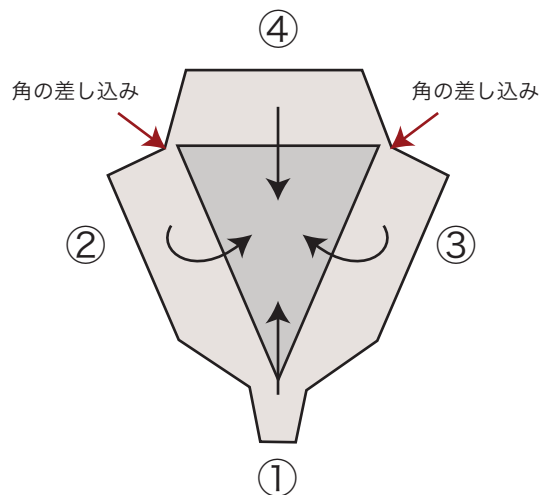
先は、少し V 字に折り畳んで、カルトンの小口をしっかりと折り込みます。下になるパーツですから、特に両袖があまり大きくならないことと、上の二隅の角は、外観に現れてくる角です。丁寧に角を折り込んで不要な部分はカットしましょう。

17



完全にくるんだパーツ

完全にくるんだパーツは、最初に接合したパーツの間にはめ込んでいくためのものです。



先の折り込みは、生地が最も集中するところです。先端を先に折り込んで、左右を折畳み、余分な端布をカットします。最後に上部のクロスを折り込んでから、角の差し込みを丁寧に内側に押し込んでやると作業がしやすくなります。

18

**上面に外装パーツを接合する**

全体のバランスをとるために、カルトンに八等分の下書き線を入れて均等に割り付けていきます。特に外周小口の角の処理は、外からクロスの端が目立たないように内に入れるよう心がけましょう。

19

**上面の対角に貼っていく**

両袖の開いた外装パーツを対角に接合していきます。パーツの先端は、ノブの下に差し込んで、外周小口を合わせた位置にしましょう。ノブの下に差し込むことが重要なポイントです。

20

**上面パーツを全て配置してみる**

どこか一カ所狭くて入らないところが出てくる場合は、広くとってしまったところを一旦剥がして再配置しましょう。(勇気をもって！) パーツを削るのは最後の手段です。

21

**突き合わせた目地の生地を溝に押し込む**

パネルの突き合わせた目地の生地に浮く箇所があれば、パタースパチュラで押し込んで真直ぐ美しく見えるよう整えながら接合を進めていきます。

18

**上面に外装パーツを接合する**

全体のバランスをとるために、カルトンに八等分の下書き線を入れて均等に割り付けていきます。特に外周小口の角の処理は、外からクロスの端が目立たないように内に入れるよう心がけましょう。

19

**上面の対角に貼っていく**

両袖の開いた外装パーツを対角に接合していきます。パーツの先端は、ノブの下に差し込んで、外周小口を合わせた位置にしましょう。ノブの下に差し込むことが重要なポイントです。

20

**上面パーツを全て配置してみる**

どこか一カ所狭くて入らないところが出てくる場合は、広くとってしまったところを一旦剥がして再配置しましょう。(勇気をもって！) パーツを削るのは最後の手段です。

21

**突き合わせた目地の生地を溝に押し込む**

パネルの突き合わせた目地の生地に浮く箇所があれば、パタースパチュラで押し込んで真直ぐ美しく見えるよう整えながら接合を進めていきます。

22

**クランプで圧縮する**

蓋の全てのくるみが完了しました。そもそもカルトンが薄いために、反りというよりは歪んでいるはずです。くるみの手順は対角にすべて貼り進めていますので、この歪みを圧縮して乾燥させることで真直ぐに戻ります。カルトン端材を使って四方の角部分をクランプで軽く締めて乾燥させましょう。

蓋の反りの原因と処方箋

カルトナーージュの反りは、カルトン自体が反る素材特性によるものと、くるみによってクロスを引っ張りすぎることカルトンが反ることがありますが、大半は、クロスの張り方による影響のほうが大きいのです。対角に張っていく方法は、力の配分と分散です。そのための手順でもあるわけです。

蓋のノブがぐらついていたと思うのですが、上面パーツがくさびの役割を果たしています。ノブは接着しても、恐らくそのうちに外れてしまうでしょう。この方法がベターなのです。

23





Cartonnage Lesson Text

Candy Pot II

ポット型カルトナージュ【組み立て・トリム編】
スカラップカットのキャンディーポット

2023年11月17日 第2版 更新

2010年7月 初版

著者 Tassel N

発表 Tassel&Cartonnage <https://www.passamano.jp>

発行 PASSAMANO.JP

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

Copyright © 2010-2023 Passamano All rights reserved. Published by PASSAMANO.JP
Original Japanese edited by Tassel N First edition: July,2010